

ヒューマンファクター研究

[目的]

電気事業のヒューマンエラー低減、安全文化の醸成に資するため、ヒューマンファクター事象の分析能力の向上策、個人やチームの特性を生かしたエラー低減方策、組織の安全文化の醸成方策などを開発する。

[主な成果]

- ・ルール逸脱実態把握方法として、ヒューマンファクター事象分析(ヒューマンエラーの背後要因分析)に基づく方法を提案した。この方法は、ヒューマンエラー・事象発生、ルール逸脱、およびその背後要因(他者の行為、ルール自体の問題等)の関係を明らかにできることから(図1)、ルール遵守態度等に焦点を当てた対策のみならず、ルール・仕組み等の作業システムに焦点を当てたものへと、ルール逸脱対策の充実が期待できる [Y09017]。
- ・現場作業における危険の内容や危険度、見つけにくさを考慮した新たな危険感受性評価尺度を開発した。またヒューマンエラーと背後要因の関係などのヒューマンファクターに関する知識を持つ被験者は、見つけにくく、より一層重大な危険を多く見出せることが明らかになった[Y09011]。
- ・ヒューマンファクター事象分析能力評価のための着眼点を明確化するとともに、分析力向上のための教育項目を体系的に整備した。

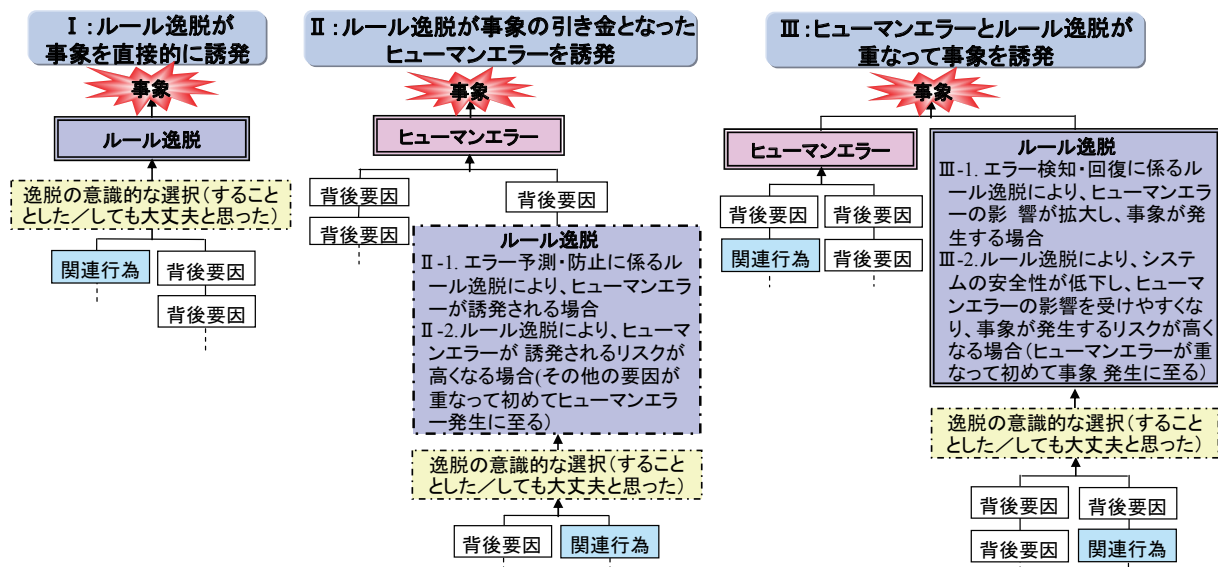


図1 ヒューマンエラー・事象発生、ルール逸脱ならびに背後要因との関係

上記 I のようにルール逸脱が事象発生に必ずしも直結するわけではなく、上記 II、III のようにヒューマンエラーや様々な背後要因が重なり合い、事象が発生することが多い。特に、上記 II-2、III-2 のようにルール逸脱から事象発生が隔たっている場合には、ルール逸脱の背後要因のみでなく、ヒューマンエラー・事象発生に至らしめるその他要因・ヒューマンエラーも考慮に入れた、総合的な逸脱対策を立案する必要がある。